

プロジェクト一覧

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況						プロジェクトの目標	担当部局			
				第1期末評価時点 (集計年度)	第1期末評価時点以降～平成28年3月末時点			平成28年4月～平成29年1月末時点				平成29年度の実施予定		
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況				備考	
陸域	1	汚濁負荷量(COD、T-N、T-P)の総量削減	水質総量削減に係る指定地域において発生する汚濁負荷量を削減する。	COD: 173 トン/日 T-N: 177 トン/日 T-P: 12.6 トン/日 (平成24年度)	—	COD: 170 トン/日 T-N: 176 トン/日 T-P: 12.7 トン/日 (平成25年度)	—	—	COD: 163 トン/日 T-N: 170 トン/日 T-P: 12.3 トン/日 (平成26年度)	—	東京湾においては、さらに水環境改善を進める必要があることから、総量削減対象事業場に対する総量規制基準による規制や下水道、浄化槽等の汚水処理施設の整備、小規模事業場や農業等に対する削減指導の実施等、総合的な負荷削減対策を推進し、第8次水質総量削減の削減目標量の達成を図る。	COD: 139 トン/日 T-N: 155 トン/日 T-P: 9.0 トン/日 (中長期ビジョン)	環境省水・大気環境局	
	2	汚水処理施設の整備推進	汚水処理施設が未普及である地域の普及促進を行う。	約94% (平成24年度) 東京湾流域を含む1都3県における値	—	約95% (平成26年度) 東京湾流域を含む1都3県における値	—	—	約95% (平成27年度) 東京湾流域を含む1都3県における値	—	汚水処理事業を推進する。	約97% 東京湾流域を含む1都3県における値	都県	
	3	高度処理の推進	良好な水環境を創出するため、高度処理施設の導入を推進する。	(窒素及びりんりの同時除去) 約13% (窒素又はりんりの除去+窒素及びりんりの同時除去) 約19% (平成24年度)	—	(窒素及びりんりの同時除去) 約22% (窒素又はりんりの除去+窒素及びりんりの同時除去) 約34% (平成26年度)	—	—	(窒素及びりんりの同時除去) 約22% (窒素又はりんりの除去+窒素及びりんりの同時除去) 約39% (平成27年度)	—	高度処理を推進する。	段階的の高度処理にも取り組み 東京湾流域別下水道整備 総合計画を達成(H36)	関東地方整備局建設部	
	4	合流式下水道の改善	合流式下水道により整備されている区域において、雨天時において公共用水域に放流される汚濁負荷量が分流式下水道並以下までに改善する。	約68% (平成24年度)	—	約80% (平成26年度)	—	—	約80% (平成27年度)	—	合流式下水道緊急改善事業を推進する。	合流式下水道改善率 100%(H35末)	関東地方整備局建設部	
	5	東京湾総量削減計画の進捗状況の把握	東京湾総量削減計画の目標達成に向けた進捗状況を計るため、汚濁負荷量や施策の実施状況を把握し、ホームページにおいて発信する。	年度毎の進捗状況を把握し、ホームページで公表 COD:23トン/日 T-N:27トン/日 T-P:2.2トン/日 (平成24年度)	—	年度毎の進捗状況を把握し、ホームページで公表 COD:23トン/日 T-N:27トン/日 T-P:2.0トン/日 (平成25年度)	—	—	年度毎の進捗状況を把握し、ホームページで公表 COD:22トン/日 T-N:26トン/日 T-P:2.0トン/日 (平成26年度)	—	平成28年度の進捗状況を把握し、ホームページで公表予定。	—	神奈川県環境農政局	
	6	東京湾流域市が行う合併処理浄化槽設置費補助への助成	東京湾流域市(横須賀市、三浦市の2市)が行う単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換に係る補助事業に対し助成を行う。	助成を実施 (平成24年度実績:4件)	—	助成を実施 (平成25～26年度実績:4件)	—	—	助成を実施 (平成27年度実績:3件)	—	合併処理浄化槽設置費補助への助成を実施予定。	—	神奈川県環境農政局	
	7	河川直接浄化の実施	陸域負荷対策として、既存施設による河川の直接浄化を引き続き実施する。	—	—	運転稼働率100% (平成25年～平成27年実績)	—	※操作規則等に基づく運転停止時間、定期的なメンテナンスによる停止時間(固定)を除いた時間	—	運転稼働率100% (平成28年実績)	—	河川の直接浄化を引き続き実施する。	運転時間稼働率 :100%	関東地方整備局河川部
	8	湿地や河口干潟再生等の自然再生	自然再生事業として、水質浄化等に資する湿地や河口干潟再生等を実施する。	—	—	16箇所 (江戸川:1箇所、荒川:15箇所、多摩川:0箇所)	—	当該河川における各自然再生事業の予定事業期間に基づく設定	—	1箇所(荒川)で自然再生を実施	—	2箇所(荒川:1箇所、多摩川:1箇所)で自然再生を実施する。	箇所数:39箇所	関東地方整備局河川部
	9	合併処理浄化槽の設置促進	浄化槽設置に係る補助事業を効果的に活用するとともに、各種啓発活動を行い、単独処理浄化槽及び汲便槽から合併処理浄化槽への転換や、高度処理型浄化槽の設置を促進する。	生活排水対策を進めるため、東京湾流域17市町が行う浄化槽設置に係る補助事業に対し、助成を実施 ①通常型浄化槽(転換)132基 ②高度処理型浄化槽(新設、転換)699基 ③転換補助(上記の内数)537基 (平成24年度)	—	①通常型浄化槽(転換)225基 ②高度処理型浄化槽(新設、転換)1,214基 ③転換補助(上記の内数)966基 (平成25～27年度実績)	—	—	①通常型浄化槽(転換)122基 ②高度処理型浄化槽(新設、転換)368基 ③転換補助(上記の内数)241基 (平成28年11月現在)	—	—	①通常型浄化槽(転換)55基 ②高度処理型浄化槽(新設、転換)356基 ③転換補助(上記の内数)263基 (平成28年7月現在)	—	千葉県環境生活部
	10	東京湾総量削減計画の周知と啓発	東京湾総量削減計画の各種取組の周知、啓発等を行い、汚濁負荷量の削減に努める。	第6次及び第7次東京湾総量削減計画の削減目標を着実に達成させるために、一般県民向けの啓発用パンフレットの配布や、船舶を用いた東京湾視察会の開催など、啓発活動を実施した。	—	第7次東京湾総量削減計画の削減目標を着実に達成させるために、一般県民向けの啓発用パンフレットやクリアファイルの配布や、船舶を用いた東京湾視察会の開催など、啓発活動を実施した。	—	—	—	—	各種取り組みの周知、啓発等のため、イベント等にて、一般県民向けの啓発用パンフレットやクリアファイルの配布など、啓発活動を実施した。	—	・第8次東京湾総量削減計画の削減目標を着実に達成させるために、一般県民向けの啓発用パンフレットやクリアファイルの配布など、啓発活動を実施する。 ・計画の周知のため、関係事業者に対する説明会を開催する。	—

プロジェクト一覧

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局	
				第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成28年3月末時点			平成28年4月～平成29年1月末時点					平成29年度の実施予定
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考			
海域	1	深掘跡の埋め戻し	浚渫土砂等を有効活用し、青潮の発生要因のひとつとされている深掘跡の埋め戻しを行う。	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを実施 埋め戻し量約1,500万 <sup>3</sup> (平成15年度～平成23年度)	千葉港及び湾奥部	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを約600万 <sup>3</sup> 実施(平成24年度～平成27年度)	取組を継続	千葉港及び湾奥部	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを約60万 <sup>3</sup> 実施	—	取組を継続	達成量	千葉県環境生活部
	2	干潟・浅場等の保全・再生・創出	水質改善や生物多様性の確保に資する干潟・浅場等の保全・再生・創出を行う。	東京湾内の3カ所において、全8.5haの浅場・緑地・磯浜・藻場を再生・創造するとともに、モニタリングにより効果を検証(平成18年度～平成24年度)	東京港中央防波堤沖 東京港野鳥公園	平成18～23年度に造成した磯浜(3.0ha)のモニタリングを実施(平成23～26年度) 干潟拡張工事にに向けた調査・設計を実施	モニタリング期間終了 干潟拡張面積: 11.8ha	— 東京港野鳥公園	— 干潟拡張に向けた潜堤工事を実施	— —	— 干潟拡張工事を実施予定	再生・創出された干潟の造成面積:10ha以上	東京都港湾局
	3	覆砂	浚渫土砂等を有効活用し、底質の改善を目的とした覆砂を行う。	東京湾奥部(浦安沖)において浚渫土砂を活用した覆砂を実施、覆砂後モニタリングを実施 覆砂約450,000m <sup>3</sup> 、覆砂面積約45ha(平成17・18年度)、モニタリング(平成19～23年度)	勝島運河	覆砂工事にに向けた調査を実施	覆砂面積:約1.3ha	勝島運河	覆砂約28,000m <sup>3</sup> を実施予定	—	モニタリングを実施予定	覆砂された面積:50ha以上	東京都港湾局
	4	生物共生型港湾構造物の整備・改修	生物と共生する港湾構造物の整備を行う。	東京湾内の4カ所において、生物付着を促進する港湾構造物等を整備するとともに、モニタリングにより効果を検証 全整備延長2,215m、再生された干潟・藻場等の面積13.9ha エアレーションの導入等に関して高濃度酸素水発生装置による実海域実験を1カ所で行う。 (平成15年度～平成24年度)	横浜港京浜地区	干潟・磯場環境実験施設「潮彩の渚」において、各種実証実験等の取組を実施(平成25年度～)	潮彩の渚 延長:約50m 干潟・磯場面積: 約1,000m <sup>2</sup>	横浜港京浜地区	各種実証実験等の取組を継続中	—	取組を継続	生物共生型港湾構造物の整備数:5カ所	関東地方整備局 港湾空港部
	5	浚渫土砂等の高度利用の推進	浚渫土砂や建設副産物(スラグ等)の高度利用に向けた施策を推進する。	横浜港金沢地区で、浚渫土砂と一部潜堤にスラグを混合した人工石を活用した浅場・藻場造成を実施するとともに、モニタリングにより効果を検証 浅場造成 0.8ha(平成21年度)、モニタリング実施(平成22～24年度)	富津市富津地区	東京外かく環状道路(千葉県区間)の建設発生土により、富津沖に存在する窪地の埋戻し及び覆砂による浅場造成(約81ha)とモニタリング(工事中の水質調査、底質・底生生物調査等)を実施(平成25年度～)	—	富津市富津地区	東京外かく環状道路(千葉県区間)の建設発生土により、富津沖に存在する窪地の埋戻し及び覆砂による浅場造成とモニタリング(工事中の水質調査、底質・底生生物調査等)を実施	—	取組を継続	—	関東地方整備局 港湾空港部
	—	—	—	—	横須賀港追浜地区	港湾工事中から発生した浚渫土砂等を有効利用した浅海域(干潟)の整備の検討を実施 横須賀港浅海域保全・再生研究会の開催(平成24～25年度) 整備について関係者・関係機関と協定締結(平成26年度) 地元町内会・企業・市民団体・漁業関係者等との意見交換会、地元住民への説明会、整備前の環境調査(平成27年度)	—	横須賀港追浜地区	浅海域(干潟)の整備内容について、関係者・関係機関と協議調整 整備後の利活用や管理等について検討	—	浅海域(干潟)の整備に着手する。また、整備後の利活用や管理等についての検討、関係者及び関係機関との協議調整を行う。	—	横須賀市港湾部
	6	NPOや企業、漁業者等による藻場等の造成の推進	NPOや企業、漁業者等による藻場等を造成する際の支援等を行う。	(第2期計画から記載)	横浜港金沢区白帆地区	横浜港の公共水域を民間企業に開放し、市民団体と連携したアマモ場造成に関する活動(UMIプロジェクト)が展開 平成26年度:2社(セブンイレブン記念財団、(株)高千穂) 平成27年度:3社((一財)セブンイレブン記念財団、(株)高千穂、東洋建設(株))	—	横浜港金沢区みなとみらい21地区	(一財)セブンイレブン記念財団、(株)高千穂、東洋建設(株)、マルハニチロ(株)により、市民団体と連携したアマモ場造成に関する活動が展開	—	取組を継続するとともに、新たな実施場所の検討を行う。	6カ所以上で実施	関東地方整備局 港湾空港部 横浜市
	7	臨海部企業が有する護岸の改修に対する技術的支援・助言	臨海部企業が所有する護岸を改修する際に、環境機能を付加させる技術の支援・助言を行う。	(第2期計画から記載)	—	生物共生型港湾構造物の整備に関する技術的ガイドラインを公表(平成26年7月) 「港湾環境政策の目指す方向性」(主な施策の1つに生物共生型港湾構造物)を公表(平成27年9月)	—	—	生物共生型港湾構造物の整備促進対応策を検討	—	取組を継続	10社以上で実施	国土交通省港湾局
8	汚泥浚渫	底泥から溶出する汚濁物質の低減を図るため、底泥の除去を行う。	東京湾全体で、汚泥浚渫を約308,300m <sup>3</sup> 、覆砂を約10,700m <sup>3</sup> 、約2.1ha実施するとともに、モニタリングにより効果を検証(平成15年度～平成23年度)	東京港・江東地区・芝浦地区	汚泥浚渫を約32,000m <sup>3</sup> 実施(平成24年度) 汚泥浚渫を約46,000m <sup>3</sup> 、覆砂を約0.3ha実施(平成25年度) 汚泥浚渫を約15,000m <sup>3</sup> 実施(平成26年度) 汚泥浚渫を約29,000m <sup>3</sup> 実施(平成27年度)	平成26年度はダイオキシン類を含む土砂処分が発生し、浚渫土量が減少	東京港・江東地区・芝浦地区	汚泥浚渫を約25,000m <sup>3</sup> 実施予定	—	汚泥浚渫を約40,000m <sup>3</sup> 実施予定	汚泥の浚渫土量:30万 <sup>3</sup> 以上	東京都港湾局	

プロジェクト一覧

担当 分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局	
				第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成28年3月末時点			平成28年4月～平成29年1月末時点					平成29年度の実施予定
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考			
海域	9	浮遊ゴミ等の回収	海面を浮遊するゴミ・油について、海域環境整備船等にて回収を行う。	約20隻の清掃船等により東京湾全体で、浮遊ゴミを約74,867m <sup>3</sup> 油を4m回収(平成15年度～23年度)海洋短波レーダによる浮遊ゴミ回収システムを開発(平成17年度～20年度)赤潮回収技術及び回収装置の開発を検討(平成15年度)	東京湾	清掃兼油回収船「べいくりん」により浮遊ゴミを回収 平成24年度:139.4m <sup>3</sup> 平成25年度:125.9m <sup>3</sup> 平成26年度:105.4m <sup>3</sup> 平成27年度:318.1m <sup>3</sup>	—	東京湾	浮遊ゴミを127.5m <sup>3</sup> 回収(H28.12時点)	—	取組を継続	浮遊ゴミ・油回収量:達成量	関東地方整備局 港湾空港部
					千葉港 木更津港	清掃船により浮遊ゴミを回収 平成24年度:2,344m <sup>3</sup> 平成25年度:3,301m <sup>3</sup> 平成26年度:2,139m <sup>3</sup> 平成27年度:2,346m <sup>3</sup>	—	千葉港 木更津港	清掃船により浮遊ゴミを1,570m <sup>3</sup> 回収(H28.10時点)	—	取組を継続		千葉県土整備部
					川崎港	清掃船により浮遊ゴミを回収 平成24年度:375.25m <sup>3</sup> 平成25年度:334.75m <sup>3</sup> 平成26年度:402.75m <sup>3</sup> 平成27年度:472.25m <sup>3</sup>	—	川崎港	清掃船により浮遊ゴミを236.75m <sup>3</sup> 回収(H28.12時点)	—	取組を継続		川崎市港湾局
					東京港	清掃船により浮遊ゴミを回収 平成24年度:2,071m <sup>3</sup> 平成25年度:1,883m <sup>3</sup> 平成26年度:2,450m <sup>3</sup> 平成27年度:3,396m <sup>3</sup>	—	東京港	清掃船により浮遊ゴミを1,648m <sup>3</sup> 回収(H28.11時点)	—	取組を継続		東京都港湾局
					横浜港	清掃船により浮遊ゴミを回収 平成24年度:1,447m <sup>3</sup> 平成25年度:1718M/T 平成26年度:1706M/T 平成27年度:2202M/T	—	横浜港	清掃船により浮遊ゴミを1,326M/T回収(H28.12時点)	—	取組を継続		横浜市港湾局
	10	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動の推進	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動を推進する。	海底ゴミの回収や清掃活動をのべ41回開催、のべ11,822人が参加、44.3tのゴミを回収(平成15年度～23年度)	千葉港中央地区	千葉ポートパーク(緑地及び人工海浜)において清掃活動を実施 平成25年度:7/31 約130名参加 平成26年度:7/28 約150名参加 平成27年度:7/29 約140名参加	—	千葉港中央地区	7/29に千葉ポートパークの緑地及び人工海浜の清掃活動を実施、21団体150名参加	—	取組を継続	清掃活動等のイベント回数 および市民参加延べ人数: 45回、1万3千人	関東地方整備局 港湾空港部
					横須賀港新港地区、浦賀地区及び久里浜地区	海面浮遊ゴミの清掃活動を6/15、7/15の2日間開催し、23人参加、2.2m <sup>3</sup> のゴミを回収(平成25年度)5/28、6/14、7/29、10/14海面浮遊ゴミの清掃活動を実施。また、航路調査船「うらなみ」が航路バトロール中に約0.1tの浮遊ゴミの回収(平成26年度)7/19NPO法人と共同し岸壁上から清掃を実施(港内の海面清掃を計画していたが、荒天により船舶での清掃は中止)(平成27年度)	—	横須賀港新港地区	横須賀市等が実行委員会を設けて実施するイベントの一つとして行われる船上見学会において、第二海堡の情報とともに海にゴミを捨てない啓発資料を作成して見学会参加者に配布。(参加者110名)	—	取組を継続		
					東京港お台場地区	鳥の島海浜清掃を開催 平成24年度:99人参加、0.2tのゴミを回収 平成25年度:67人参加、0.3tのゴミを回収 平成26年度:7/30 57人参加、0.38tのゴミを回収	—	—	—	—	—		
					川崎港東扇島地区	東扇島クリーン大作戦を開催 平成24年度:205人参加、約4tのゴミを回収 平成25年度:231人参加、約6tのゴミを回収 平成26年度:293人参加、約7tのゴミを回収 平成27年度:10/7 335人参加、約7tのゴミを回収	—	川崎港東扇島地区	10/5に東扇島クリーン大作戦を開催し、399人参加、約4tのゴミを回収	—	取組を継続		
					東京港 ・お台場海浜公園 ・城南島海浜公園	ボランティアによる海浜清掃を開催 平成24年度:2,345人参加、2.3tのゴミを回収 平成25年度:1,636人参加、2.6tのゴミを回収 平成26年度:1,858人参加、2.4tのゴミを回収 平成27年度:1,909人参加、2.2tのゴミを回収	—	東京港 ・お台場海浜公園 ・城南島海浜公園	ボランティアによる海浜清掃を開催し2,384人参加、0.7tのゴミを回収	—	取組を継続		
横須賀港走水地区	近隣の小中学生を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を開催しゴミを回収 平成25年度:7/13 約264人参加、150kg 平成26年度:7/12に開催を予定していたが、荒天により中止 平成27年度:7/4に開催を予定していたが、荒天により中止	—	横須賀港走水地区	近隣の小中学生を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を平成28年7月3日に開催し、約243人参加、270kgのゴミを回収した。	—	取組を継続							
横浜港山下地区	山下公園海底大清掃を開催 ボランティアダイバーにより海底清掃を実施 平成24年度:10/21 252人参加、1,020kgのゴミを回収 平成25年度:10/20 130人参加、1,200kgのゴミを回収 平成26年度:10/19 103人参加、1,500kgのゴミを回収 平成27年度:10/18 113人参加、800kgのゴミを回収	—	横浜港山下地区	平成28年10月16日に山下公園海底大清掃を開催し、ボランティアダイバーにより海底清掃を実施102人参加、400kgのゴミを回収	—	NPO等による海底ゴミの回収を推進する。(山下公園前)	横浜市港湾局						

プロジェクト一覧

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況						プロジェクトの目標	担当部局		
				第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成28年3月末時点			平成28年4月～平成29年1月末時点				平成29年度の実施予定	
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況				備考
海域	11	貧酸素化緩和技術の検討	貧酸素化緩和の調査研究・技術開発を推進する。	千葉港千葉中央地区において、高濃度酸素水発生装置を用いた水・底質改善を実施(機械の製作・設置(平成21年度)、モニタリング実施(平成22～24年度))	東京湾	東京湾の流況・水質を再現し、貧酸素化緩和技術の評価等、将来環境予測を行うため東京湾全体のシミュレーションモデルの構築を進める。(平成25年度) 東京湾内での水深変更等による環境への影響を予測するため東京湾の流況・水質シミュレーションについて、平成25年度に構築したシミュレーションモデル及び入力パラメータ等の妥当性を評価した。(平成26年度)	—	東京湾	—	—	湾外からの低温・高塩分の水塊の侵入による影響、青潮発生も含めたシミュレーションモデルの精度を向上させる予定。	—	関東地方整備局 港湾空港部
				—	千葉港	貧酸素水塊の分布予測情報の提供、貧酸素水塊の漁業資源への影響調査を実施	—	千葉港	貧酸素水塊の分布予測情報の提供、貧酸素水塊の漁業資源への影響調査を実施	—	より精度の高い貧酸素水塊の分布予測や青潮被害軽減シミュレーションシステムの開発に取り組む。	—	千葉県環境生活部
	12	ブルーカーボンの調査研究・技術開発の推進	海洋(沿岸域)における炭素固定(ブルーカーボン)の調査研究・技術開発・活用方策検討を推進する。	横浜ブルーカーボンに関する検討委員会やシンポジウム、啓発イベント等を開催(平成22年～)八景島シーパラダイスで、ブルーカーボンに関する実証実験を実施(平成23年～24年)	横浜港	横浜ブルーカーボン事業によるカーボン・オフセット制度の導入を目指し、社会実験を実施した。シンポジウムや啓発イベントを開催した。	—	横浜港	横浜ブルーカーボン事業によるカーボン・オフセット制度を運用し、クレジットの活用を推進。啓発イベント等を開催。	—	取組を継続	—	横浜市温暖化対策事業本部
				ブルーカーボンに関する定量評価の確立に向けた調査研究を実施(平成24年～)	—	—	ブルーカーボンに関する定量評価の確立に向け、CO2吸収効果の計測手法に関する調査研究を実施(平成26年度) 気候変動の緩和機能と減災機能の便益算定法の検討、各港湾整備事業による緩和機能と減災機能評価法の検討を実施(平成27年度)	—	—	・国内外において、炭素動態に関連する水底大気質の実測や、干潟水槽・メソコム水槽において、炭素動態に関する実験を実施 ・浅海域生態系による波浪減衰や越流量低減効果に関するモデル化を実施。全球推計のための地形・生態系データの収集とGIS解析を実施。 ・ブルーカーボンの活用の推進を目的に設置される予定の「ブルーカーボン研究会」に協力しながら研究を推進。	—	取組を継続	—
	13	生態系サービス(海の健康度)の定量化手法の開発	沿岸域の環境の価値を定量的に評価する手法の開発	(第2期計画から記載)	—	生態系サービスを貨幣換算しないで海洋状態を包括的に評価する新しい手法であるOcean Health Index(海洋健全度指数)を用いて、港湾域の環境を定量化する検討を行う。 食糧供給や観光・レクリエーション等の生態系サービスについて、定量化の検討を実施。(平成27年度)	—	—	H26d～H27dで開発された定量化手法を用いて得られた得点を用いて、干潟の有するサービスの便益を算出する手法を検討	—	取組を継続	—	国土交通省 国土技術政策総合研究所
	14	自然エネルギー等の活用検討	風力や波力等の再生可能エネルギー、また海藻等のバイオマスエネルギー等の活用検討を行う。	風力等自然エネルギーの導入及び利活用について検討を実施(平成23年度)	—	有識者等による委員会を開催し、「港湾における洋風力発電施設の技術ガイドライン(案)」を策定し、平成27年3月に公表。	—	—	平成28年5月に港湾法が改正(7月1日施行)され、港湾区域等を占有する者を公募により決定する手続き(占有公募制度)を創設。 当該制度の的確な運用を図るため、「港湾における洋上風力発電の占有公募制度の運用指針」を策定し、改正港湾法の施行に合わせて公表。	—	占有公募制度の的確な運用に向け、同制度を充実・深化。	—	国土交通省港湾局 関東地方整備局 港湾空港部
	15	漁業・漁場を取り巻く環境整備の検討	東京湾の江戸前の魚介類が豊富に存在するための環境整備を検討する。	(第2期計画から記載)	三番瀬から盤洲干潟、富津干潟	漁業者が実施する干潟の保全に係る活動(覆砂、耕うん、カイヤドリウミグモやツメタガイ等の有害生物の駆除)を支援した。	—	三番瀬から盤洲干潟、富津干潟	漁業者が実施する干潟の保全に係る活動(覆砂、カイヤドリウミグモやツメタガイ等の有害生物の駆除)を支援した	—	引き続き、漁業者の干潟の保全に係る活動を支援し、アサリ等の二枚貝資源の増大に取り組む。	—	千葉県環境生活部

プロジェクト一覧

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況						プロジェクトの目標	担当部局		
				第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成28年3月末時点			平成28年4月～平成29年1月末時点				平成29年度の実施予定	
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況				備考
海域	16	環境教育・体験活動等の推進	東京湾の自然環境を活かした環境教育・体験活動等を行う。	(第2期計画から記載)	横浜港白帆地区	東京湾各地において、マリレジャー普及を図るため、UMI協議会参加団体がボート試乗体験や釣り体験等のイベントを開催、出展(計10件)東京湾各地において、マリレジャー普及を図るため、UMI協議会参加団体がボート試乗体験や釣り体験等のイベントを開催、出展した。また、東京都江東区においてUMI協議会が初めて主催する親水イベントを実施(平成27年度)	UMI協議会:マリレジャー関連団体により構成される協議会であり、国土交通省海事局と連携して活動を実施	東京湾	東京湾各地において、マリレジャー普及等を図るため、UMI協議会・UMI協議会参加団体がボート試乗体験や安全に楽しむための啓発活動等のイベントを開催、出展した	—	取組を継続	達成量	国土交通省海事局  関東地方整備局 港湾空港部
					川崎港東扇島地区	東扇島公園内の干潟の活用について検討を実施(平成25年度)	—	—	—	—	—		
					横須賀港	7/20、7/21「Save the Beach in 横須賀」(横須賀市うみかぜ公園)にてゴミ回収活動状況をブース展示。また、活動状況を事務所HPに掲載。(平成25年度) 7/19観音崎クリーンアップ大作戦に参加し、横須賀南ライオンズクラブと共同して清掃活動を実施。また、活動状況を事務所HPに掲載。(平成26年度) 7/11「歴史と風景から「みなとヨコスカ」の魅力を探る講演会」の開催時に「東京湾クリーンアップ大作戦」の展示ブースを設置し、海洋環境整備事業のPRを実施(平成27年度)	—	①横須賀港 ②横浜港(大さん橋)	①横須賀市ほか実行委員会を設けて実施するイベントの一つとして行われる船上見学会において、当所が第二海堡の情報とともに海にゴミを捨てない啓発資料を作成して見学会参加者に配布。(参加者110名) ②「うみ博」にてパネル展示、べいさーちの船内公開、運営スタッフの派遣を行い、当局の海洋環境整備事業等の広報をサポート。(船内見学者344名)	—	取組を継続		
					横浜港京浜地区	干潟・磯場環境実験施設「潮彩の渚」を活用し、環境調査・自然体験活動を実施(平成23～27年度) 東京湾クリーンアップ大作戦等のイベントにおいて、清掃兼油回収船「べいくりん」や展示ブースにより、海洋環境整備事業のPR活動を実施(～平成27年度)	—	横浜港京浜地区	干潟・磯場環境実験施設「潮彩の渚」を活用し、7/6、7/7、7/19に地元小学生を対象とした「港と環境の学習会」を実施。 清掃兼油回収船「べいくりん」のデモンストレーション及び展示ブース設置により、海洋環境整備事業のPRを実施。(6/2横浜開港祭、7/23クリーンアップ大作戦、7/30たてやま海まちなみフェスタ、9/18みなと木更津うみ祭り、10/22～23東京湾大感謝祭)	—	取組を継続		
					東京港・お台場海浜公園・海の森	お台場海浜公園では、地元の小学校を対象に、のりづくり体験学習イベントを、小学校PTA、NPO、地元区と協働して開催。(平成25年度3回、平成26年度3回、平成27年度3回) 海の森では、一般市民、企業を対象に植樹イベントを開催。(平成25年度2回、平成26年度2回、平成27年度1回)	—	東京港・お台場海浜公園	お台場海浜公園では、地元の小学校を対象に、のりづくり体験学習イベントを、小学校PTA、NPO、地元区と協働して3回開催	—	引き続き、のりづくり体験学習イベントを開催予定。		
					船橋市	漁業者が、千葉県内外の住民、地域の小学校の教師及び児童を対象に干潟の環境教育や漁業体験を実施し、千葉県もこの取組を支援した。実施回数 18回、受講者数 745名(平成27年度)	—	船橋市	漁業者が、千葉県内外の住民、地域の小学校の教師及び児童を対象に干潟の環境教育や漁業体験を実施し、千葉県もこの取組を支援した。現在実施中	—	引き続き、干潟の環境教育や漁業体験を実施する。		
					千葉県	千葉県立中央博物館内での展示解説や講座、海岸での観察会等、様々なイベントを実施した。	—	千葉県	千葉県立中央博物館内での展示解説や講座、海岸での観察会等、様々なイベントを実施した。	—	引き続き、様々な形態の施策を実施していく。		
					千葉県	魚食普及促進に向け、「新鮮!ちばの海の幸!水産物直売所マップ」をはじめとする各種パンフレット等の配布、ホームページ「千葉さかな倶楽部」の運営、千葉県産水産物の販売促進のための取組・PRイベント出展への支援を実施した。また、「千葉ブランド水産物」への認定に向けた取組への支援、認定後の認知度拡大のための取組への支援を実施した。(平成27年度に「江戸前船橋瞬めずき」を新たにブランド認定)	—	千葉県	魚食普及促進に向け、「新鮮!ちばの海の幸!水産物直売所マップ」をはじめとする各種パンフレット等の配布、ホームページ「千葉さかな倶楽部」の運営、千葉県産水産物の販売促進のための取組・PRイベント出展への支援を実施した。また、「千葉ブランド水産物」への認定に向けた取組への支援、認定後の認知度拡大のための取組への支援を実施した。(平成28年度に「外房つりきんめ鯛」の認定事業者を追加認定)	—	引き続き、魚食普及促進に向け各種パンフレット等の配布や「千葉ブランド水産物」への認定に向けた取組支援等を継続的に実施していく。		
					川崎港 多摩川河口	外国船見学会(年1回)、水環境体験ツアー(年1回)、多摩川河口干潟の生きもの観察会(年6回程度)や各種団体等による夏休み川崎港見学会(年2回)、夏休み海洋環境教室(年1回)、川崎みなと祭り(年1回)、水辺の楽校(年5回程度※)、のり作り体験教室(年1回)を実施 ※東京湾～河口域での開催回数	—	川崎港 多摩川河口	外国船見学会(年1回)、水環境体験ツアー(年1回)、多摩川河口干潟の生きもの観察会(年6回程度)や各種団体等による夏休み川崎港見学会(年2回)、夏休み海洋環境教室(年1回)、川崎みなと祭り(年1回)、水辺の楽校(年5回程度※) ※東京湾～河口域での開催回数	—	取組を継続		
横須賀港 新港地区	「横須賀うみかぜカーニバル」を開催し、マリンスポーツの体験乗船会等を実施(平成9年度～)	—	横須賀港 新港地区	平成28年7月16、17日に「横須賀うみかぜカーニバル」を開催し、マリンスポーツの体験乗船会等を実施 来場者6,100人、体験乗船者1,100人	—	取組を継続	横須賀うみかぜカーニバル実行委員会(横須賀市等)						

プロジェクト一覧

担当 分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局	
				第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成28年3月末時点			平成28年4月～平成29年1月末時点					平成29年度の実施予定
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考			
モニタ リング	1	東京湾環境一斉調査 (東京湾における流域および海 域の環境一斉調査)	多様な主体による水質等の調査の実 施	平成20年から毎年実施してい る。	東京湾及び 東京湾流域	荒天のため一斉調査は中止、各機関で任意に調 査を実施してデータを提供 ・参加機関数:112 ・調査地点数:海域204、陸域388 調査への参加を市民・事業者呼び掛け	共通	東京湾及び 東京湾流域	8/3に一斉調査を実施した。 ・参加機関数:142 ・調査地点数:海域222、陸域382 調査への参加を市民・事業者呼び掛け	共通	引き続き実施する。	調査の継続 参加団体数の拡大	共通
	2	水質等の観測 (東京湾の水質の常時監視)	水質汚濁防止法第16条に基づく常時 監視により、東京湾の水質を把握す る。	定期的実施している。	東京湾内 (東京湾内湾19地点・ 東京湾内房9地点)	平成27年度測定計画に基づき常時監視、底質調 査等を実施 (水質調査を年6・12回、底質調査を年1回実施)	千葉県	東京湾内 (東京湾内湾19地点・ 東京湾内房9地点)	平成28年度測定計画に基づき常時監視、底質調 査等を実施 (水質調査を年6・12回、底質調査を年1回実施予 定で計画どおり進行している)	千葉県	平成29年度測定計画に基づき常時監 視、底質調査を実施予定。	—	都県・水濁法政令市
					東京湾内4地点	平成27年度測定計画に基づき常時監視を実施 (水質調査を年12回実施)	千葉市	東京湾内4地点	平成28年度測定計画に基づき常時監視を実施	千葉市	平成29年度測定計画に基づき常時監 視を実施予定。	—	都県・水濁法政令市
					東京湾流入河川	水質汚濁防止法による公共用水域の水質調査と して実施	関東地方整備局 企画部	東京湾流入河川	水質汚濁防止法による公共用水域の水質調査と して実施	関東地方整備局 企画部	平成29年度測定計画に基づき常時監 視を実施予定。	—	都県・水濁法政令市
					東京湾内 (鶴見川河口先、横 浜港内、磯子沖、平 潟湾内、本牧沖、富 岡沖、平潟湾沖)	平成27年度測定計画に基づき常時監視、底質調 査(年2回)を実施	横浜市	東京湾内 (鶴見川河口先、横 浜港内、磯子沖、平 潟湾内、本牧沖、富 岡沖、平潟湾沖)	平成28年度測定計画に基づき常時監視、底質調 査(年2回)を実施	横浜市	底質調査は7地点中4地点の巡回調 査に縮小。	—	都県・水濁法政令市
					東京湾	平成27年度測定計画に基づき常時監視を実施	川崎市	東京湾	平成27年度測定計画に基づき常時監視を実施	川崎市	平成29年度測定計画に基づき常時監 視を実施予定。	—	都県・水濁法政令市
					東京湾	平成27年度測定計画に基づき常時監視を実施	神奈川県	東京湾	平成28年度測定計画に基づき常時監視を実施	神奈川県	平成29年度測定計画に基づき常時監 視を実施予定。	—	都県・水濁法政令市
					東京都内湾	平成27年度測定計画に基づき常時監視を実施	東京都	東京都内湾	環境基準点・補助点及び運河部において水質・底 質の測定を年2～12回実施	東京都	引き続き実施する。	—	都県・水濁法政令市
	3	水質等の観測 (広域総合水質調査)	東京湾の水質、底質、プランクトン及び 底生生物調査を実施する。	定期的実施している。	【水質】 28地点 【植物プランクトン】 10地点 【底質、底生生物】 9地点	東京湾の水質、プランクトン調査を年4回、底質及 び底生生物調査を年2回実施	—	【水質】 28地点 【植物プランクトン】 10地点 【底質、底生生物】 9地点	東京湾の水質、プランクトン調査を年4回、底質及 び底生生物調査を年2回実施	—	—	調査の継続	環境省水・大気環境局
					東京湾内21地点	底質及び底生生物の冬季調査を1/7～12に実施 (5年に1回の実施計画)	—	東京湾内21地点	実績なし	—	実施予定なし。	—	関東地方整備局 港湾空港部
	4	水質等の観測 (測量船による透明度・水温・塩 分・溶存酸素のモニタリング実 施)	東京湾内の定点において測量船によ る定期的なモニタリングを行う。	毎月1回、実施している。	東京湾内19地点	計画どおり12回観測を実施したが、天候等により 平成27年7、9月、平成28年2月には、一部欠測の 点がある。平成27年11月は、溶存酸素の項目が 観測できていない。	—	東京湾内19地点	計画どおり毎月1回の観測を実施	—	毎月1回の調査を実施予定。	—	第三管区海上保安本部
	5	水質等の観測	定点による連続観測(モニタリングポスト)、 清掃兼油回収船「べいくりん」によ る定期観測の実施	千葉灯標等、湾内5ヶ所で連続 観測が実施され、Webサイトにて 情報が公開されている。	千葉灯標	モニタリングポストによる水質・海潮流等の連続 観測を実施	—	千葉灯標	観測機器の不具合は一部あるものの、モニタリ ングポストによる海潮流等の連続観測を実施	—	引き続き実施する。	—	海上保安庁 海洋情報部
					【モニタリングポスト】 4地点	東京湾内の4地点(千葉港波浪観測塔、千葉港口 第一号灯標、川崎人工島、浦安沖)に水質、潮流 流況、気象を測定する観測機器を設置し、24時間 365日連続観測を実施	—	【モニタリングポスト】 4地点	東京湾内の4地点(千葉港波浪観測塔、千葉港口 第一号灯標、川崎人工島、浦安沖)に水質、潮流 流況、気象を測定する観測機器を設置し、24時間 365日連続観測を実施	—	【モニタリングポスト 4地点】 東京湾内の4地点(千葉港波浪観測 塔、千葉港口第一号灯標、川崎人工 島、浦安沖)に水質、潮流流況、気象 を測定する観測機器を設置し、24時 間365日連続観測を実施	観測の継続	関東地方整備局 港湾空港部
					【定点水質観測】 6地点	【定点水質観測】 東京湾内の6地点(一般海域)において毎月1回、 観測機器による測定、採水及び水質分析を実施	—	【定点水質観測】 6地点	【定点水質観測】 東京湾内の6地点(一般海域)において毎月1回、 観測機器による測定、採水及び水質分析を実施	—	【定点水質観測 6地点】 東京湾内の6地点(一般海域)におい て毎月1回、観測機器による測定、採 水及び水質分析を実施		

プロジェクト一覧

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況						プロジェクトの目標	担当部局		
				第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成28年3月末時点			平成28年4月～平成29年1月末時点				平成29年度の実施予定	
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況				備考
モニタリング	6	東京湾の赤潮発生状況の把握	調査船による定期的な監視及び漁業者等からの随時の情報収集により、東京湾の赤潮発生状況を監視する。	毎年、東京湾の赤潮発生状況を把握している。 ※神奈川県海面で発生した全赤潮を把握するものではない	東京湾	東京湾の赤潮発生状況を把握(平成27年度赤潮発生件数※:0件) ※神奈川県先で発生した全赤潮を把握したものではない	—	東京湾	東京湾の赤潮発生状況を把握(平成28年度赤潮発生件数※:4件 12月12日現在) ※神奈川県先で発生した全赤潮を把握したものではない	—	東京湾の赤潮発生状況を把握予定。	—	神奈川県環境農政局
				毎年、東京湾の赤潮発生状況を把握している。 ※千葉県海面で発生した全赤潮を把握するものではない	東京湾	東京湾の赤潮発生状況を把握(平成27年度36回出航し、赤潮確認11件、27年12月末現在) ※千葉県先で発生した全赤潮を把握したものではない	—	東京湾	東京湾の赤潮発生状況を把握(平成28年度29回出航し、赤潮確認12件、平成28年10月末現在) ※千葉県先で発生した全赤潮を把握したものではない	—	29年度も継続して東京湾の赤潮発生状況を調査予定。	—	千葉県環境生活部
			調査船による定期的な東京湾の赤潮発生状況の監視を実施する。	毎年、東京湾の赤潮発生状況を把握している。	東京都内湾	東京湾の赤潮発生状況を把握	—	東京都内湾	環境基準点7地点とお台場で、夏季を中心に実施。	—	引き続き実施する。	—	東京都環境局
	7	三番瀬自然環境調査事業	生物とそれを取り巻く環境に関して、地形・環境条件・生物の中から、必要な調査を実施する。	—	三番瀬	稚魚生息状況調査 12回(月1回) 鳥類個体数調査 24回(月2回)	—	三番瀬	鳥類個体数調査4月～6月6回(月2回) 三番瀬自然環境総合解析	平成23～28年度の三番瀬自然環境調査結果から三番瀬の自然環境を総合的に解析する。	鳥類個体数調査 24回(月2回)	必要な調査の継続	千葉県環境生活部
	8	観測・環境調査データ等の公開	観測データの公開、モニタリングポストで得られたデータのリアルタイム情報発信、その他観測・環境調査データの標準化によるデータベース化及び東京湾環境情報センターからのデータ公開	広域総合水質調査に関しては環境省が、環境基準点の調査結果については各自自治体または東京湾岸自治体環境保全会議がそれぞれ報告書を作成している。	①モニタリングポスト(4地点) ②海洋短波レーダー(東京湾内湾) ③環境調査データのデータベース化(東京湾全域)	①モニタリングポストによる定点連続観測データ(気温、平均風速、水温、塩分、DO、クロロフィルa、濁度、流況)のリアルタイム情報発信、東京湾環境情報センターでの公開 ②海洋短波レーダーで取得された表層流況の面的分布(ベクトル)、風向風速、推算潮位データのリアルタイム情報発信、東京湾環境情報センターでの公開 ③東京湾環境一斉調査等の環境調査データを標準化によるデータベース化、東京湾環境情報センターでの公開	関東地方整備局 港湾空港部	①モニタリングポスト(4地点) ②海洋短波レーダー(東京湾内湾) ③環境調査データのデータベース化(東京湾全域)	①モニタリングポストによる定点連続観測データ(気温、平均風速、水温、塩分、DO、クロロフィルa、濁度、流況)のリアルタイム情報発信、東京湾環境情報センターでの公開 ②海洋短波レーダーで取得された表層流況の面的分布(ベクトル)、風向風速、推算潮位データのリアルタイム情報発信、東京湾環境情報センターでの公開 ③東京湾環境一斉調査等の環境調査データを標準化によるデータベース化、東京湾環境情報センターでの公開	関東地方整備局 港湾空港部	①モニタリングポスト(4地点)による定点連続観測データ(気温、平均風速、水温、塩分、DO、クロロフィルa、濁度、流況)のリアルタイム情報発信、東京湾環境情報センターでの公開 ②海洋短波レーダー(東京湾内湾)で取得された表層流況の面的分布(ベクトル)、風向風速、推算潮位データのリアルタイム情報発信、東京湾環境情報センターでの公開 ③東京湾環境一斉調査等の環境調査データを標準化によるデータベース化、東京湾環境情報センターでの公開	データ公開の継続	共通(関東地方整備局)
					(東京湾全域)	(常時監視) 各自自治体が常時監視を行った「平成26年度の測定データ」について報告を受け、全国集計結果として取りまとめ、27年12月25日に概要、データ等をホームページ上で公開	プロジェクトNo.2の結果の公開	(東京湾全域)	(常時監視) 各自自治体が常時監視を行った「平成27年度の測定データ」について報告を受け、全国集計結果として取りまとめ、28年12月22日に概要、データ等をホームページ上で公開	プロジェクトNo.2の結果の公開	引き続き実施する。	調査データの公開	環境省水・大気環境局
					【水質】 28地点 【植物プランクトン】 10地点 【底質、底生生物】 9地点	(広域総合水質調査) 調査結果を集計し、データをホームページ上で公開	—	【水質】 28地点 【植物プランクトン】 10地点 【底質、底生生物】 9地点	—	引き続き実施する。	調査データの公開	環境省水・大気環境局	
	9	東京湾の貧酸素水塊発生状況の発信	調査船が実施する水質調査により、ホームページ(東京湾の溶存酸素情報)において貧酸素水塊の発生状況を発信する。	毎年、東京湾の溶存酸素情報を発信している。	東京湾	東京湾の溶存酸素情報を発信(平成27年度実績:15回)	—	東京湾	東京湾の溶存酸素情報を発信(平成28年度実績:19回 12月12日現在)	—	東京湾の溶存酸素情報を発信予定。	—	神奈川県環境農政局
	10	モニタリング研究会	有識者によるモニタリング分科会への助言	平成20年度の「東京湾のモニタリングに関する政策助言」により、今後の施策の方針等が示された。	—	—	—	—	—	—	—	関係機関が連携・協働した効率的かつ効果的なモニタリング体制の構築	共通